

熊本県立水俣高等学校(定時制) 令和6年度(2024年度)学校評価計画表

1 学校教育目標
<p>スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえ、校訓「自律 敬愛 創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えた人材の育成をめざす。</p> <p>そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命感と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。</p>

2 本年度の重点目標
<p>(1) 健全な心身の育成</p> <p>ア 基本的生活習慣の確立と社会規範の醸成を図る。</p> <p>イ 自主・自律の精神を涵養する。</p> <p>ウ 情報モラル教育の充実に努め、情報化社会で生きる力を育成する。</p> <p>エ 他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。</p> <p>オ 学校行事等の取組をととして、帰属意識、協調性、自己肯定感等を高める。</p> <p>(2) 学力の向上と進路指導の充実</p> <p>ア 授業の充実に努め「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。</p> <p>イ 基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。</p> <p>ウ ICTを活用した教育の情報化を推進し、探究的な学びの充実に努める。</p> <p>エ キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。</p> <p>オ 個々の能力・適性・進路目標に応じた個別最適な学びを実践し、きめ細やかな指導に努める。</p> <p>(3) 保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実</p> <p>ア 生徒に水俣高校定時制で学ぶことへの自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。</p> <p>イ 情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。</p> <p>ウ 商品開発の取組等、地域社会と連携した取組をととして探究する力を育み、社会の一員としての自覚を高め、視野を広げる。</p> <p>エ 保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。</p> <p>オ 学校運営協議会を活用し、地域との連携を強化した学校運営を図る。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の 観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	目標管理による学校運営の推進	学校教育目標と重点目標の理解	全職員が学校教育目標を理解し、重点目標の実現に向けた教育活動に取り組む。学校評価アンケートの「教育方針をわかりやすく伝え教育活動に取り組んでいる」の項目で、9割以上の肯定的評価を得る。	職員会議及び面談等を通して学校教育目標を明示し、各個人の年間目標に反映させる。教育活動及び業務全般において、学校教育目標に沿ったものとなっているか、その達成度等について評価を行い、改善につなげる PDCA サイクルを回す。	A	学校評価アンケートでは92%の職員が「教育方針をわかりやすく伝え教育活動に取り組んでいる」と回答しており、昨年度の 83%からも大幅に向上し、当初の目標を達成した。

	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検および防災教育の徹底	事故防止のための安全管理を定期的に実施する。防災意識を高め、自発的・能動的に自分の命を守る行動ができる。	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施する。年度当初に避難経路を確認させ、2学期に地元消防署の指導で防災訓練等を実施する。地域と連携した防災教育等を実施する。マイタイムラインを使用した防災教育を実施する。	A	日常点検は全職員、定期点検は各学期担当者が行った。修理箇所等の対応は事務部に依頼し、改善された。 1学期に防災士を招聘した生徒職員向け防災教育及びマイタイムラインの作成実践を実施。2学期には水俣消防署における消火訓練・心臓マッサージ等の実践指導を行った。
		保健衛生指導の充実	新興感染症への理解度を高める。感染リスクを自ら判断し適切な行動ができる。	始業前の健康観察により生徒の健康状態を把握する。感染源・感染経路に関する指導等を行う。	A	I C Tを活用した健康観察を毎日行い、健康状態を把握した。全ての普通教室にサーキュレータを設置し、教室の換気を行うことで、学校内での感染拡大を防止した。9割の生徒がマスクを着用しており、感染リスクを自ら判断した適切な行動ができている。
	生徒理解の推進	生徒の課題や指導の共有化と一人一人の居場所がある学校づくり	個別・最適な指導により学ぶ意欲を喚起し、自己発見、自己実現を支援する。特別な配慮が必要な生徒への組織的な支援体制を整える。生徒・保護者と信頼関係を築きながら登校を促し、中途退学者・長欠者を減少させる。	個別の面談等を通して生徒理解を深め、連絡会等で共通理解を図り、全職員で支援する体制を構築する。生徒理解研修会を年に5回程度実施して情報共有を図る。関係機関と連携しながら合理的な配慮や個に応じた指導を行う。	A	始業時の職員連絡会や生徒理解研修を通して、各職員が把握した情報を全員で共有して支援にあたることで、生徒個別の状況に応じた合理的配慮を実施できた。必要に応じて行政や外部の専門機関等と情報を共有し、学校内にとどまらない支援体制を整えることができた。欠席日数が心配な生徒は数名見られるものの、本年度の中途退学者は0である。
	業務改善	業務改善の推進	従来の業務について効率化を常に見直す。業務遂行における時間削減及びペーパーレス化を推進する。	I C Tを活用した効率化が見込める業務を洗い出し、セキュリティに留意しながら積極的な変更を推奨する。	A	授業及び校務における様々な分野でI C Tの活用が進み、ペーパーレス化を含む業務の効率化が進んだ。今後更に業務の見直しを進める。
	働き方改革	時間外勤務時間の削減	働き方改革の意識を浸透させ、職員の心身の健康を増進する。	定時退勤を呼びかけ、年休の取得を奨励する。業務の偏りを平準化する。	A	学校評価アンケートで50%の職員が「業務の見直しや時間外在校等時間の削減に努めている」と回答。11月までの時間外勤務平均時間は昨年度の19:34から減少し18:38であった。

学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ1回以上の研究授業を行う。また、ICTを積極的に活用し、一人一台に対応できる授業づくりを進め、新学習指導要領の主旨に沿って、主体的な生徒の学びを引き出す。	教務部が企画・立案し、全教科で取り組む。また他校のリモートによる公開授業に積極的に参加する等、新たな公開授業のスタイルに即した教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。また新課程において求める力を具現化した評価を行う。	B	職員による研究授業や公開授業の参加が少なく、研修機会の増加はできなかった。その一方で、授業評価の結果は各職員に早期に渡すことができ、授業の改善につながったと考えられる。ICTの活用については、前年より推進することができ、生徒の活用も増加している。
	基礎学力の向上	基礎国語など、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。1年生の授業においてT・Tを有効に行う。	教務部が企画・立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	A	職員各々が基礎学力の向上に主体的に努めた結果、成績不振に陥る生徒も出ず、基礎学力の定着は着実に進んだ。T・Tについても学習支援が必要な生徒に寄りそった支援が行われた。
キャリア教育 (進路指導)	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定と在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路保障と在校生の就労率を50%まで高める。商業関係の検定受験を勧める。	卒業予定者の保護者と進路面談を実施する。進路指導部と各担任との連携を深める。商業関係の検定前学習を1週間程度実施する。	B	卒業予定者との面談は夏季休業時に実施済みである。在校生の就労率は40%である。商業関係の検定の受験にやや消極的である。検定に対する、課外は良好である。
	進路意識の高揚	キャリアパスポートの活用や進路関係行事の実施	キャリアパスポートを活用しながら各担任と連携して進路セミナーや進路関係行事等を年度2回程度実施する。	関係行事等は進路指導部が立案し、外部関係機関と連携を密にして全職員で取り組む。	A	キャリアパスポートの取り組みは4年目を迎え、定期的な記録・活用は定着している。進路関係行事は自己分析を中心に充実している。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	交通安全教室の実施、及び交通安全について日々啓発することにより、規範意識を向上し、交通事故を防止する。	年1回交通安全教室を実施し、登下校指導、ホームルーム活動において交通安全の啓発活動の内容を充実させる。	A	水俣自動車学校の協力による交通安全教室を実施し、夜間の無灯火の危険性を体験したり、ヘルメット着用の必要性やキックボードの危険性などを学んだりできた。
		挨拶、マナー、時間厳守等の基本的生活習慣の確立	挨拶の励行によって、気持ちの良い学校生活を送れるようにする。情報モラル教育を実施し、SNS等でのトラブルを防止する。	学校生活の様々な場面で生徒間、職員間で挨拶をするよう指導する。年1回情報モラル教育の講演会等を実施する。	A	挨拶や職員室への入退室等、全職員共通理解のもと継続して指導することで定着してきた。SNSでのトラブルについて水俣警察署からの協力を得て講演をいただいた。実際起こっているトラブルや犯罪まで学ぶことができた。

	健康教育の推進	薬物乱用防止の徹底	講演会や教科「保健」において、薬物の根絶を目指した内容を取り扱う。	外部講師を招へいし、喫煙および薬物の身体的・社会的影響等の内容に関する講演会を、年1回実施する。	A	外部講師による講演会を実施し、薬物乱用による自他共に関わる危険性や依存性の怖さ、若者を標的とする組織について学んだ。
人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	職員の人権意識の向上と深化を図り、生徒の人権意識の向上につなげる	学習機会の定期的な設定による生徒、職員の人権感覚を醸成させる。	同和問題（部落差別）に対しての職員研修を実施する。人権講演会、人権LHRを実施する。各種校外研修への参加を通じて職員の人権感覚の醸成を図る。	A	出張等の資料や県からの配付物等は職員間で回覧する等、情報共有を行った。夏休みの研修において、全日制と合同で、人権に関する学習を行った。
	「命を大切にする心」を育む指導の推進	「命」「生きる」との考察をとおした自己肯定感と他者を思いやる心の育成	全教職員による全ての教育活動での人権を意識した取り組みを実施する。	全ての教育活動を通じて、人権教育を推進するための職員研修を実施し、生徒の人権意識の向上に繋げる。	A	夏休みに予定していた特別支援教育職員研修は台風で中止となった。年に数回ある生徒理解研修の中で、個々の生徒の学習への取り組みや人権教育に関する意識の向上に繋げた。
	教科指導における取り組みの推進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題やニーズに応じた学習指導の工夫をする。	教務部と連携して「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を目指し、ICTを活用しながら、全教科・全職員で取り組む。	B	書画カメラや電子黒板等の活用が前年以上に進み、視覚的に優れた授業が増加した。今までと同様、座学については各担当が授業プリントを活用するスタイルを継続することによって、生徒が混乱することなく授業に取り組んでいる状況がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及びいじめ防止対策委員会を中心とした取り組み	いじめを許さない環境をつくる。SNS等によるいじめ対策として、全生徒を対象に指導を行う。また、いじめの早期発見と早期解決を実践する。	生徒会を中心に「いじめ根絶宣言文」を作り、全生徒に取り組むように指導する。スマートフォンのメリットや危険性を学ぶ講演会を実施する。また、生徒に担任を通じてLHRの時間等で「いじめ」について考えさせる。各学期にいじめ等アンケートを実施する。	A	いじめトラブルの温床となっているSNS等について、外部講師を迎え講演会を実施し、保護者等には関係資料などを配付した。今年度は、いじめ事案は発生していないが、職員が生徒と情報を共有し生徒を観ていく必要がある。
特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒の実態把握と実態に応じた支援の充実	支援を要する生徒への理解を深め、個々に応じた支援を推進する。生徒・保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会を通して生徒の実態を把握し、職員の間で共通理解を深める。個別の支援計画・指導計画を作成し、適切に実施する。必要に応じてSCやSSW、医療機関等と連携して、支援の充実を図る。	A	毎日、始業時の職員連絡会において各学年から生徒の状況を報告し、職員間で共通理解を図った。必要な生徒に対して作成した個別の支援計画・指導計画や、年間5回の生徒理解研修を基に、生徒の特性を把握して支援にあたることで、生徒の状況に応じた合理的配慮を実施できた。

環境教育	地域と連携した環境教育の推進	SDGs 未来都市のための学校版環境 ISO の取り組み	学校版環境 ISO 宣言項目を徹底し、全日制と連携しながら取り組む。また、教科において循環型社会の内容を取り扱い指導する。	地域における、ごみの分別ルールに従い処理し、コンタクトレンズケース等の回収を年 5 回行い、地域活動に参加する。外部講師を招聘し、環境教育講演会を実施する。	A	地域におけるごみの分別ルールに従い 6 つのごみ箱を設置し、生徒個人で分別している。コンタクトレンズケースの回収も概ね達成。環境教育は国立水俣病総合研究センターから講師を招聘し、講演会を実施した。
	学習環境の整備と推進	環境美化意識の醸成と実践力の育成	環境美化について意識して主体的に取り組むことができる生徒を育成する。	生徒、職員で毎月 1 回エコスクール・チェックシートを活用し、環境美化コンクールの得点平均を 10 点上げ、環境整備の意識を涵養する。	A	毎月 1 回エコチェックシートを活用しタブレットで回答する取り組みを実践した。環境美化コンクールの生徒による得点が全ての項目で 4 月から向上するなど、環境美化の意識を向上させることができた。
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	家庭・地域への定時制教育の周知	地域住民に対する定時制教育についての情報発信	学校行事の紹介を中心に定時制の教育活動について、学校ホームページや定時制だよりによる情報発信の即時性を高め、内容を充実させる。	学校行事や商業科の販売実習における定時制の教育活動の成果を公開する。学校ホームページを随時更新し、地域住民に定時制の取り組みを発信する。また、定時制だよりを月 1 回発行し、家庭に教育活動の成果を周知する。	A	学校行事を中心に文化祭、校外研修、販売実習等の様子を学校ホームページや定時制だよりを通してタイムリーに配信し、情報発信の即時性を高め、地域住民に定時制の教育活動を紹介するとともに本校生徒の活躍を十分に周知することができた。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	保護者との連携・協力体制を構築する。	P T A 総会後の保護者懇談会で学校の指導方針を説明する。	B	P T A 総会後の保護者懇談会で学校における生徒の頑張りを伝えとともに、保護者の意見を交えながら学校の指導方針について話す機会を持つことができた。
		総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携・協力体制の構築	教育活動の改善のための地域連携体制を確立させる。地域と協働した商品開発や販売実習等を活性化する。	これまでに地域と連携して取り組んできた商品開発や販売実習を軸として、地域との連携・協力体制を確立する。	A	地域連携体制の取組として本校商業科の特色を生かし、商品の開発及び改善を地域の食品業者と連携して行った。更にエコパークや芦北青少年の家等、校外における販売実習を通して地域との親睦交流に繋げた。

4 学校関係者評価

(1) 学校評価アンケートより

過去4年間の学校評価アンケートを分析すると、「ていねいで分かりやすい授業」「授業に積極的に参加できる工夫」など、授業に関する項目で生徒の評価が過去4年間で一番高い結果となった。ICTの効果的な活用方法の研究も進み、一人一台端末の活用法についても職員研修が定期的に行われていることや、T・T指導及び個に対応した授業等による効果が表れたものと感じている。他にも「人権を尊重した教育」「環境教育」「学校の様子を保護者や地域に伝えている」といった項目で生徒の評価が過去4年間で一番高い結果となった。このうち最後の2項目については保護者の評価も同様の結果となり、Google クラスルームを利用した定期的なエコチェックの呼びかけや、学校HPの充実した内容を、生徒・保護者ともに評価したものと捉えている。また、「進路講演会や面談による進路情報提供」「ルールを守り、マナーを高める取組」について保護者の評価が過去4年間で一番高い。若者サポートステーション等の外部講師による進路講話を定期的実施しており、今年度はグランメッセで開催された職業体験フェスタに1,2年生が参加した事も大きい。定時制としては初の試みではあったが、非常に効果は高かったものと感じている。

全体を通して、生徒の評価は全13項目のうち11項目で昨年度から評価が高くなっており、保護者の評価も7項目が昨年度からの伸びを見せた。

(2) 第2回学校運営協議会より

定時制に関する事では、本年度の5月30日に水俣市総務企画部危機管理防災課の協力のもと水俣市防災士部会や熊本県防災士アドバイザーを講師に招いて実施した防災教育に関して言及があった。本校としても豪雨の危険性が高まる前に、水俣市防災ハザードマップやマイタイムライン等を活用した実践的な話を聞くことができ、大変有意義な取り組みだった。防災士は、志さえあれば誰でも受験することができ小学生で受験している者もいる。高校生もぜひチャレンジしてほしいとのことであった。今後とも、機会を捉えて話をしていくことで、防災意識を高めていきたい。

5 総合評価

(1) 学校教育目標について

「互いを認め、励まし、個性を高め合う教育の推進」については、従来から特に力を入れてきたところであり、学校評価アンケートにおける「一人一人の人権を尊重した教育が行われている」の項目においても全ての生徒が肯定的回答をしている。

また、「自ら考え、学び、夢に向かって主体的に行動する力を備えた人材の育成」について、特に生徒会が中心となって主体的に行動しており、学校行事等において企画・立案をし、リーダーシップを発揮する場面が多くあった。これまでの卒業生たちが主体的に活躍する場面を見てきた現在の生徒たちが生徒会執行部として様々な提案をし、学校行事を盛り上げてきた。そしてそれが次の世代へと受け継がれていく良い流れができていく。これからも本校の教育スローガンである『探究する力を育み、主体的な学びで夢（願い）を実現する生徒の育成』を実現すべく学業面、生活面にて指導を充実させていく。

そして、地域社会との連携について、これまでに構築してきた地域との繋がりを大切に、オリジナル商品の開発や販売実習等の取り組みを充実させてきた。地域の中の水俣高校であり、地域から支えられているという実感を生徒たちが感じられるよう、年間を通して計7回の校外学習を実施した。お世話になっている連携先の地域業者はもちろんのこと、数多くの来場者との触れ合いの中で、生徒たちにとって多くの学びがあったことを実感している。

(2) 本年度の重点目標について

健全な心身の育成について、毎日の基本的生活習慣の確立や挨拶・清掃指導等を通して社会規範の醸成を図りつつ自主・自律の精神を涵養すべく、学校行事等の取り組みを充実させてきた。生徒たちは学校行事の中で集団行動を体験し、自主・自律の精神を培ってきた。また、情報モラルについては、SNSの適切

な使い方を中心として外部講師を招聘した講演会を毎年実施しており、他者を思いやり、命や人権を尊重する心の育成を図った。

学力の向上について、基礎国語などの学校設定科目を開講し、基礎学力の向上を図ってきた。また、1年生の全ての授業をチームティーチング指導とし、個に応じた指導を充実させている。また今年度は検定試験の受験を積極的に勧めており、検定前の個別指導やキャリアアップ講座を実施することで、学習の到達度に応じた指導も併せてレベルアップを図ることができ、取得者数も増加した。

進路指導について、未就労者や卒業予定者を対象に、夏休みに進路セミナーを実施したり、学期1回程度の外部講師による進路講話を実施したりしてきた。また、キャリアパスポートを活用し、自分の将来について考える機会を作ってきた。

保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実については、商業科としての取り組みである商品開発や販売実習といった活動だけでなく、全教科を通して探究的な学びを推進している。その集大成として3月に調べ学習発表会を実施しており、それぞれが興味・関心を持った地域に関するテーマについて調査を重ね、スライドにまとめて発表をすることで、探究する力を育み、郷土理解・郷土愛を涵養した。

(3) 自己評価総括表について

評価結果がC、Dとなった項目はなく、全体的に目標を概ね達成することができた。学校経営、生徒指導、いじめの防止等、特別支援教育の項目においてA評価であり、生徒たちが落ち着いて学校生活を送ることができる安全・安心な学びの場づくりに力を入れてきた結果が表れた。今後それを学力向上、キャリア教育に繋げ、地域連携を含めた活力ある取り組みを充実させていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

(1) キャリア教育の充実

新規学卒求人を利用した正社員としての就職や、上級学校への進学希望者の増加が課題である。キャリアパスポートを活用した日常的な指導や外部講師による進路講話を核とし、日常的な進路情報の提供を行ってきた。今後ともハローワークや若者サポートステーション等の専門機関との連携を充実させることで、進路意識の高揚、勤労観・職業観の育成を充実させていく。

(2) 地域連携の更なる強化

商業科としての学びを深めるために、これまでも地域の業者と連携した商品開発や、地域のイベント等における販売実習等を行ってきた。地域の人たちに支えられ、見守られてきたこれらの取り組みを絶やすことがないよう、生徒の参加希望者数を増加させ、連携体制の強化を図る。そして学校HPを中心に取り組みの様子を発信し、本校定時制教育の魅力向上に努めていく。